

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	E S D ・ 環境教育論						授業形態		講義	
科目コード	750183	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								ICT活 用	○
授業概要	地球環境問題の解決のためには環境問題を単独で取り扱うのではなく、社会・経済・格差など様々な文脈のなかで環境問題を考える、ESDの視点が不可欠で、学校教育については、現行の指導要領の中にもESDの視点が盛り込まれており、教育実践とその効果が蓄積されている。SDGsの実現に向けた2030年までのESD推進を強化するためのプログラム「ESD for 2030)」では、5つの優先行動分野の一つ「教育者の育成」では教員養成や現職教員研修などにESDを取り入れることが求めている。本講義では、ESDの視点に立った環境教育の意義を理解した上で、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、環境教育の在り方について自分の考えを構築することを目標とする。そのうえで、課題解決型で探究的な総合的な学習の時間のカリキュラム構築ができるようになることを最終的なゴールとする。									
関連する科目	子どもと自然、環境問題演習、環境問題入門（エコロジー入門）、ESD・環境教育演習、総合的な学習の時間の指導法									
授業の進め方 と方法	与えられる課題について、まず、各自調べてきたこと・考えたことなどをクラスまたはグループで出し合い、まとめることを一回の講義の中で行う。□ ICT活用については、文献収集にあたりデータベース検索を活用する。									
授業計画 【第1回】	第1回:オリエンテーション ・環境教育の歴史と理念について理解する。									
授業計画 【第2回】	第2回:環境教育からESD(Education for Sustainable Development)へ ・環境教育とESDの関係について歴史的な背景を踏まえて深く理解をする。									
授業計画 【第3回】	第3回:幼児教育・学校教育とESD（学びの視点から） ・幼児教育・学校教育に流れるESDの考え方、学び方について理解する。									
授業計画 【第4回】	第4回:ESDと総合的な学習の時間 ・ESDと整合性が高い総合的な学習の時間の目的と意義について理解する。									
授業計画 【第5回】	第5回:地球環境問題1/生態系と生物多様性 ・生物多様性を保全する目的と意義について理解する。									
授業計画 【第6回】	第6回:地球環境問題2/気候変動（地球温暖化） ・気候変動について理解をする。									
授業計画 【第7回】	第7回:地球環境問題3/水と食料 ・水と食料の問題について理解する。									
授業計画 【第8回】	第8回:学校教育と環境教育1 / 導入としての体験活動 / 森林環境教育プログラム「薪ストーブ」（フィールドセンター） ・エネルギー・気候変動の教材として、薪ストーブによる薪の燃焼を体験し、教育課程への位置付けを考える。									
授業計画 【第9回】	第9回:学校教育と環境教育2 / 子どもが主体的になる環境の学習/ アクティブ・ラーニング									
授業計画 【第10回】	第10回:学校教育と環境教育3 / 教科書の中にみられる環境教育 / 生物多様性・気候変動 ・グループ毎にテーマを決め、テーマに関する単元を小学校の教科書から抽出し、総合的学習に適した学年を決定し発表する。									

授業計画 【第11回】	第11回:学校教育と環境教育4 / 教科書の中にみられる環境教育 / 森林・水と食料 ・グループ毎にテーマを決め、テーマに関する単元を小学校の教科書から抽出し、総合的学習に適した学年を決定し発表する。
授業計画 【第12回】	第12回:学校教育と環境教育5 / 小学校の教科・単元等をつなぐESDカレンダー/ カリキュラム・マネジメント ・総合的学習を核として他教科などと関連づけて教育課程をイメージ化するESDカレンダーについて学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回:学校教育と環境教育6 / 小学校の教科・単元等をつなぐESDカレンダーを作る ・テーマに関する総合的学習を他教科などと関連づけて年間計画を立案し、ESDカレンダーの作成方法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	第14回:学校教育と環境教育7 / 環境教育の授業を組み立てる ・立案した年間計画をもとに、探究的な授業プランを組み立てる（グループ活動）
授業計画 【第15回】	第15回:まとめ ・グループ毎に、テーマに沿った総合的学習の模擬授業をダイジェストしてプレゼンする。
授業の到達目標	1. ESD・環境教育の理念と意義を理解する 2. 教育現場におけるESD・環境教育の現状を把握する 3. 望ましい環境教育の在り方を構築する 4. 小学校における教科等横断的なカリキュラム・マネジメントのためのESDカレンダーを作成できる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度）。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度）。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対する フィードバック	課題・レポートについては、随時解説する。
評価方法・基準	授業への取り組みを、レポート(50%)、プレゼンテーション(20%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	講義に関する資料プリントを随時配布する。
参考書	・「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究最終報告書」（国立教育政策研究所・教育課程研究センター） ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター（東洋館出版社） ・『持続可能な地域と学校のための学習社会文化論』〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉（学文社） ・「小学校学習指導要領解説 理科編」（文部科学省）
備考	・本講義は、環境教育の「理論編」と位置付けられる。実践編の「環境教育演習」を受講するものは受講しておくことが望ましい。